



カジカのすむ清流を守ろうと行われている石磨き大会

下内野自治会(大東町)

平成元年に設立し、「かじかの里」をキャッチフレーズに活動している下内野自治会。9年の旧大東町「ふるさとづくり支援事業モデル自治会」1号指定を契機に、地域づくりの方向性を定めた「下内野4WD計画」(※4)老若男女全員で力強く、W水D夢を策定し、活力あふれる地域づくりを行っています。

大会は6年から日本大学との交流を機に実施。カジカがすめるような清流を守っていくこと、自治会員と学生が川に入り、古縄たわしで石を磨きます。さらには地元出身の音楽家による歌「かじかの里」も完成し、豊かな自然環境のシンボルとなっています。そのほか、▽中国遼寧省桓仁県桓仁鎮との国際交流▽日大への田舎教授派遣▽田植え踊りの保存なども行っています。

宅地分譲された土地を購入し、13年に盛岡市から移住した高橋隆二さん(61)は菌床シイタケのハウス栽培を行い、自治会役員も務めています。「田舎暮らしを夢見て全国を見て回りましたが、厚い人情と、造成地でなく畑をそのまま購入できることが決め手で移住。この地に骨をうずめる覚悟です」と同地域の魅力を語りました。

※下内野自治会ホームページ
<http://homepage3.nifty.com/kajikanosato/>

2団体に認定証が交付

元気なコミュニティ

県が地域活性化に先進的に取り組んでいる団体を認定し広く情報発信しようと定めた「元気なコミュニティ100選」に、市内から大東町の下内野自治会(勝部欣一会長、48世帯)、千厩町第10区自治会(遠藤敏男会長、64世帯)の2団体が選ばれました。代表者らは1月29日、市役所本庁を訪れ、浅井市長に受賞を報告。浅井市長は「自分たちの地域を自分たちで盛り立てていくという皆さんの取り組みが認められ素晴らしい。本当におめでとうございます」と祝福しました。



1月29日、浅井市長(中央)に受賞報告した勝部下内野自治会長(左から3人目)、遠藤千厩町第10区自治会長(右から4人目)など、関係者の皆さん

千厩町第10区自治会

「温故知新」たまご湯の地域づくりをキャッチフレーズに、畑ノ沢鉱泉たまご湯を運営する千厩町第10区自治会は昭和61年設立。鉱泉を所有する海田茂さんの好意により平成11年、自治会で鉱泉水の宅配を開始。好評だったことからリサイクル材料を用いた手作りの浴場と休憩所を建設し、16年から公衆浴場を運営しています。

管理には地域の高齢者が従事。「お肌がすべすべになる」と次第に評判を呼び、19年には年間1万5000人以上が利用しました。管理に携わる高齢者が元気になったのをはじめ、各種イベントへの「足湯」の出席により地域の知名度が上がったこと、多

くの注目を集めることで住民が地域に誇りと自信を持つようになったことなど、さまざまな成果が出ています。

「湯元の海田さん、管理担当の老人クラブ、そして地域の皆さんのおかげ。初心を忘れずお客さんを大切に、運営を続けていきたい。今後は若い人たちに活動を引き継いでもらえるような取り組みに力を入れたい」と、遠藤会長は受賞の喜びと今後の抱負を述べました。

「お湯から上がった体がずつとぽかぽか」「ここは普段着の湯治場」と笑顔の常連客の皆さん



元気に100歳

おめでとう100歳

富永はま子さん(一関)

富永はま子さんは1月22日、満100歳の誕生日を迎えまし

た。入所先の特別養護老人ホーム福光園でお祝いの会が催され、親族や施設関係者がはま子さんを囲み、長寿を祝いました。

阿部保健福祉部長がお祝いに訪れ、祝い状などを手渡し祝福。家族を代表し、同居していた長女の夫、文治さん(81)地主町がお礼を述べました。

はま子さんは旧門崎村に生まれ、昭和3年、故郷志さんと結婚。戦争で耀志さんを亡くし、2度の水害にあいながらも商店経営の傍ら子ども5人を育てました。

加藤トシエさん(大東)

加藤トシエさんは1月25日、入所先の介護老人保健施設ほうらいで満100歳を迎え、群馬県から駆けつけた五男の豊さん夫婦や施設関係者らが長寿を祝いました。阿部保健福祉部長が「これからも元気で」と祝い状と記念品を贈呈。豊さん夫婦と施設職員からも花束や記念写真が贈られ、トシエさんは「ありがとうございます」とうれしそうにお礼を述べました。

子7人、孫12人、ひ孫8人に恵まれたトシエさん。字を書くことが趣味で、普段の感謝の気持ちを手紙にしたため、施設の職員に手渡しているそうです。

高橋トシ子さん(一関)

高橋トシ子さん(赤萩)は1月27日、自宅で満100歳の誕生日を迎えました。26日、週2回通っている一関デイサービスセンターで祝う会が行われ、親族や通所者、施設関係者らがトシ子さんの長寿を祝いました。阿部保健福祉部長が「これからも元気で長生きしてください」と祝い状などを手渡し祝福。親族を代表して、米田ニューヨーク市で看護師をしている孫の高橋綾さん(27)が「ずつと元気でいてね」と花束を手渡しました。

現在長男の妻俊子さん(72)と二人暮らしのトシ子さん。自分の身の回りのことは自分で行い、近所の人たちとの語らいを楽しみにしているそうです。

小野寺イツコさん(一関)

小野寺イツコさん(山目町)は入所先の介護老人保健施設湯の里にのへ二戸市で2月1日、満100歳の誕生日を迎えました。イツコさんに代わり、家族が3日、祝い状と記念品を受け取りました。

旧舞川村に生まれ、二十歳ごろ故郷登さんと結婚したイツコさん。子6人、孫16人、ひ孫10人、やしやご3人に恵まれました。

「広報いちのせき」が県「2部門」で入賞



広報紙(左)と写真の入選作品

先ごろ審査が行われた平成20年度岩手県市町村広報コンクールで、広報いちのせきが広報紙の部で奨励賞(参加20点中7席)、写真の部組み写真で3位(参加24点中4席)となりました。入選作は、広報紙が協働のまちづくりを特集した12月1日号、写真が各地域の夏まつりを紹介した9月1日号12-13ページです。

今後とも市民の皆さんに親しまれる広報紙づくりに努めていきますので、取材などへのご協力をよろしくお願いいたします。



1 阿部保健福祉部長からの花束を受け取る富永はま子さん
2 親族から贈られた花束に笑顔で応じる加藤トシエさん
3 贈られた花束を手に笑顔で応じる高橋トシ子さん
4 2月1日にめでたく満100歳を迎えた小野寺イツコさん